

(別紙5)

補助事業番号 28-4-009
補助事業名 平成28年度 被災者や被災地域が行う復興活動 補助事業
補助事業者名 特定非営利活動法人 アーバンデザイン研究体

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

本事業は、持続可能な地域の実現に向けた諸課題に対応するために、5年間の活動実績を活かし、地区の魅力を確認し、イベントやもてなし・生業づくり等の実験的事業を進化させつつ、復興まちづくりのプロモーション戦略を描き、泊地区だけでなく越喜来地域全体に波及する広域連携復興の礎を整えることを目的とする。地区の魅力や復興活動等の情報発信ツールを整え、内外に発信し、知名度を高め、住民の愛着や地域力を育み、外部ネットワークを拡大しつつ、泊地区から越喜来地域のブランド化につなげ、持続可能な地域経営基盤と体制の構築を目指す。また、他の被災地区に寄与するため、その活動を概要報告書等にまとめ、広く情報を発信する。

(2) 実施内容 <http://udmovement.exblog.jp/24157201/>

①泊プロモーション戦略の検討

- ・これまでの復興活動の実績と地区の魅力を確認し、復興まちづくりのプロモーション戦略を明らかにし、その基本事業を実施した。

②プロモーションの基本事業

ア. イベント等の実験的事業の実施

- ・夏のイベントとして、「竹のモニュメント」制作とウッドチップ広場づくりを実施した。さらに、この会場で、開智学園と芝浦工業大学柏中学高等学校の生徒等により、モニュメントの光の演出や子どもキャンプなどを実施した。あわせて、地元の婦人会により、ピザの逸品試食会を開催した。
- ・秋の食まつりでは、泊地区の食材を活かした逸品料理－創作料理をつくり、地元住民による試食・評価を行った。

イ. 情報発信ツールの整備

- ・イベント等を通じてサインや結の道、広場などの環境整備を実施し、いいとこマップを整えた。
- ・泊地区のホームページやフェイスブックを開設するとともに、フェイスブック「越喜来のまちづくり」に泊地区の復興活動の状況を掲載し、情報発信している。



△夏のイベント 竹のモニュメント制作



△ウッドチップ広場づくり



△結の道の整備 (第一期開通式)



△秋のイベント 泊・食まつり

③復興まちづくり委員会の検討支援

- ・年間の検討プログラムに基づき、復興まちづくりのプロモーション戦略をはじめ、結の道の整備、夏と秋のイベント、いいとこマップ等情報発信ツールなどの検討・調整を実施した。



④市や越喜来復興委員会等との協議・調整の支援

- ・越喜来復興委員会の下部組織となる浦浜・泊地区まちづくり委員会にアドバイザーとして提案・助言し、三陸沿岸復興まちづくりフォーラムに参加した。
- ・広域連携復興として、浦浜・泊地区まちづくり委員会の共同事業として、泊川沿いの河津桜植樹会が実施された。

⑤検討活動の記録－概要報告書の作成・配布

- ・震災から6年間の泊地区の復興まちづくり活動を総括した「復興まちづくりの知恵袋－総括編 泊区復興まちづくり－6年間の軌跡」として作成・印刷し、大船渡市内外に配布した。

⑥発表・報告会の開催と情報発信

(別紙5)

- ・平成29年3月の第40回泊区復興まちづくり会議を発表・報告会として開催し、今年度の活動成果である概要報告書を示しながら、活動報告と来年度の活動方針を発表・確認した。

2 予想される事業実施効果

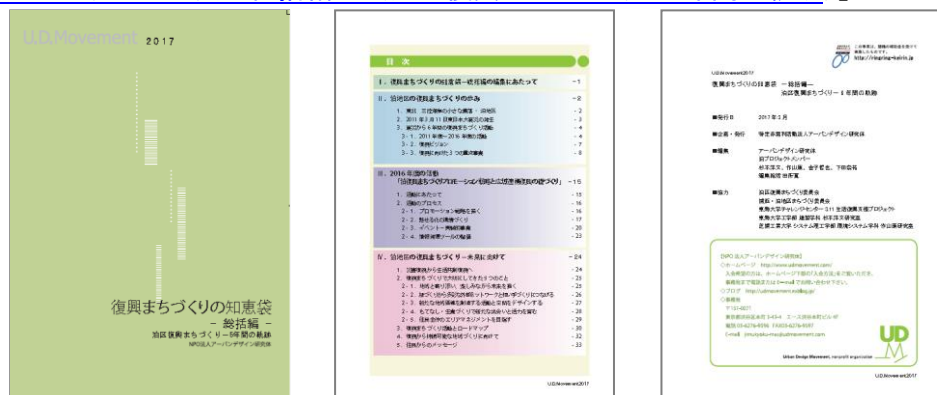
本事業は、被災跡地の再生と持続可能な地域の実現に向けて、先取の実績を活かしてプロモーション戦略を描き、越喜来地域との広域連携復興の礎づくりに挑戦した。住民主体で進めてきた6年間の復興まちづくりの成果と地域の特性を、プロモーションの観点から改めて見直し、住民自らその良さや魅力を確認し実感できた。戦略に基づき、結の道や広場等の環境整備とそれを活かしたイベントー実験的事業を実施するなど魅せる化に向けた活動と空間をデザインしたことにより、その地区内外の反響も実感できた。Web等の情報発信ツールを整え、その活用も始まっている。広域連携復興として、浦浜・泊地区まちづくり委員会の共同事業ー桜植樹を実施し、越喜来地域のWebとも連携して情報発信を行っている。概要報告書は泊地区の復興活動の紹介ツールであり、他の被災地区の参考となることが期待される。本事業は新聞ー地方紙(4回)と全国紙(1回)に掲載され、住民の自信ともなり、市や他の被災地にも貢献できたと考える。このように、プロモーション活動を戦略的に展開したことにより、住民は地域の良さと復興活動の実績を再認識し、被災区域の魅力ある再生と自主的な地域経営・運営の実現がより一層進展していくと考える。あわせて、大学や専門家等の外部ネットワークも強化され、さらに周辺地域との相乗的、発展的な広域連携復興の活動につながっていくと考える。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

概要報告書

「復興まちづくりの知恵袋ー総括編ー(泊区復興まちづくりー6年間の軌跡)」



(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 特定非営利活動法人 アーバンデザイン研究体
(トクテイヒエイリカツドウホウジン アーバンデザイン
ケンキュウタイ)

住 所 : 〒151-0071
東京都渋谷区本町3丁目43番4号

代 表 者 : 理事長 杉本洋文 (スギモトヒロフミ)

担 当 部 署 : 事務局 (ジムキョク)

担 当 者 名 : 理事 金子哲也 (カネコテツヤ)

電 話 番 号 : 03-5333-6452

F A X : 03-5333-6453

E - m a i l : jimukyoku-mas@udmovement.com

U R L : <http://www.udmovement.com>